

【入選】

典禮さんの心はいつまでも

御船町立御船中学校 1年 小林 玲蘭

先日、私たちは道徳の授業で「イカナゴの海」という教材について学習しました。

この学習を通して、私は、まわりを見て自分で気づき、考え、進んで行動することの大切さを改めて学びました。それは、「イカナゴの海」の資料の中に、上原典禮さんが、火災で苦しむ村の人たちを助けようと、自分に何ができるのかを必死に考え、イカナゴ漁を成功させることで村を救った姿が描かれていたからです。

また、典禮さんは、自分のことは一切顧みずに村を救い、村人も、そんな典禮さんに協力して、自分たちの力で村を復活させました。私は、そのことに深く感心し、協力して何かを成し遂げることがとても素晴らしいことだと感じました。

特に印象に残っているのは、自分たちの地域にイカナゴ漁の文化がなかったので、九州各地に手紙を送ったり、実際に漁が行われている遠い土地に若者を派遣し、その技術を学ばせたりしたことです。もし、私が典禮さんの立場だったら、村を救いたいという気持ちはあっても、何をしたらいいかわからずにいたと思います。たとえイカナゴがいることに気付いたとしても、どうやってイカナゴ漁を広めていけばいいのかわからず、典禮さんのように先を見て行動することは到底できなかったと思います。

私は、今回自分が住んでいる熊本に、このような素晴らしい人がいることをもっとたくさんの人に知ってほしいと思いながら大切なあるできごとを思い出しました。

私が小学校4年生の時、私の住む地域は熊本地震で大きな被害を受けました。その時、私の同級生の中には積極的にボランティアに参加している人もいました。しかし、当時の私は何もすることができませんでした。そして2年後、6年生の時に母と一緒に仮設住宅に暮らす人達の支援をするボランティアに参加することができました。私は、「人を助けたい」という思いを持ちながら、実行するまでに2年間かかってしまいました。もし、その時の私が典禮さんのことを知っていたならば、もっと早く人を助けるための行動を起こすことができたと思います。

私と同じように人を助けたい、でも何をすればいいか、何ができるかわからないという人はたくさんいると思います。でも困っている人に声をかけるなど、簡単なことでも人を助ける行動につながると思います。困っている人たちを救った典禮さん。典禮さんの心を知るということは、「何かしたいけれど…」と迷っている人に勇気を与えることができると思います。そして、私の住むふるさとは、お互いの力でお互いを助けられる社会になったらいいなと思います。